



閉じる



ダウンロード



印刷



文字拡大



文字縮小

芦屋市 平成28年 3月 定例会（第1回） 03月18日－04号

P.157 8番（大原裕貴君）

◆8番（大原裕貴君）＝登壇＝芦屋維新の会を代表しまして、第26号議案、平成28年度芦屋市一般会計予算、並びに特別会計、企業会計、財産区会計について、賛成の立場で討論をいたします。

次年度からの取り組みとして、芦屋市創生総合戦略があります。その中でも上げられております教育環境の充実については、芦屋市の魅力の一つであります。そのことは学力調査にて全国平均を大きく上回る結果が出ていることから明らかであります。

教育環境は今後、全国的に見てもＩＣＴの導入などで大きな変化を迎えることは予想されます。芦屋市でもＩＣＴの導入が検討をされております。ＩＣＴ機器を早期に子供たちに渡すことによって、子供たちがＩＣＴ機器になれ、プライベートでもＩＣＴ機器を早期に持つことが予想をされます。それに伴って芦屋市におきましては、子供たちへの情報リテラシーの教育をしっかりと進めていただくことを要望いたします。

そして、芦屋市のもともと持っている従来の教育のよさというのを殺すことなく、ＩＣＴ導入による教育環境の変化をうまく取り入れて、さらにすぐれた新しい教育環境を確立できるよう御検討いただくことを要望いたします。

また、教育といったそれらの魅力を外部に発信するためには、広報力の強化は必要不可欠です。4月1日から「広報あしや」を全戸配布していただくなど、劇的な変化はないものの、少しずつでも改善を進めていただいている姿勢については評価をいたします。

しかしながら、インターネットを利用した広報については、先進自治体に比べてもまだまだおくれをとっている部分があります。今後とも一人でも多くの市民の方に芦屋市からの情報を発信できるよう、改善を続けていただけますよう要望いたします。

予算全体を見ますと、費用対効果や優先順位に基づく事業の選択が迫られる中、適切な事業選択を行い、健全な運営をされている点については評価できるものだと考えております。

一方で、長期財政収支見込みでは、平成29年度以降は実質収支の赤字が続くことが見込まれており、今後はさらに厳しい財政状況が続くことは明白です。基金の取り崩しも進んでいます。阪神・淡路大震災のような大災害が再び発生した場合、またも財政危機に陥ってしまう。こんな可能性を秘めている状況であります。

事業を必要以上に縮小し、必要な経費を減らす必要はありませんが、費用対効果や優先順位に即した事業選択を今後も継続をしていただくこと、そして業務改善などにより全庁的なコストリダクションを図る工夫をすることで歳出を減らし、来るべき人口減少社会に備えた慎重な財政運営を継続していただくことを強く要望し、予算案に対しての賛成をいたします。

以上、一般会計ほか、全ての会計に対する賛成討論といたします。